

LUFTBAUM

株式会社ルミネ 大岩諒氏

株式会社ユニオンサウンドシステム

町田智史氏、小島裕右氏

INTERVIEW

ユニオンサウンドシステムが実現した NEWoMan TAKANAWA LUFTBAUMの音と空間演出 安心と拡張性をもたらすNETGEAR AVソリューション

取材・文：ネットギアジャパン

LUMINE



導入先

株式会社ルミネ
「NEWoMan TAKANAWA LUFTBAUM」

協力

株式会社ユニオンサウンドシステム

NEWoMan TAKANAWA

—ルミネが手がける最大規模の新施設、誕生と取り組み

高輪ゲートウェイシティの中心に誕生した「NEWoMan TAKANAWA」は、株式会社ルミネが運営する同社史上最大規模の商業施設です。『Beyond the Life Value』を掲げ、従来の商業施設の枠を超えて、お客様に未来に向けた生活価値を提案することを目指しています。の中でも「LUFTBAUM（ルフトバウム）」エリアに関しては、「その場でないと」「ここに来ないと感じられないリアルな体験価値」を追求する場として開発が進められてきました。特に音響のシステムや音による体験に強いこだわりを持って設計が進められています。



「NEWoMan TAKANAWA LUFTBAUM」。地上約150mの2フロア、延床約8,000m²のスケールに世界でも類を見ない500本以上の生の植物を配し、自然や音、そこで愉しむ食事や人の交流など「リアル体験価値」にこだわった「都心の別荘」。

施設開発・運営を担うルミネの大岩諒氏と、音響設備を手がけたユニオンサウンドシステムの町田智史氏・小島裕右氏に、音響体験づくりとNETGEAR製品の役割について話を伺いました。

ここでしか体験できない価値を、音で届ける

大岩諒氏(株式会社ルミネ): 今回 のNEWoMan TAKANAWA LUFTBAUMでは、「その場でしか体験できないリアルな価値」を重視しました。従来の商業施設では非常用スピーカーを兼ねた設備が多く、音域も狭いため、どうしてもBGM用途にとどまっていました。私たちはそこを超えて、音を単なる背景ではなく“体験そのもの”にしたいと考えたのです。

音をコンテンツとして活かすため、専用スピーカーを設置し、庭園の植栽と調和するように音を響かせることで、都市の真ん中にいながら自然と調和できる場を作りました。自宅やデバイスで聞くのとはまったく違い、身体ごと空間に浸るような体験を提供することを目指しています。

さらに今後は、庭園を含むオープンエアの空間を活かし、アーティストによる演



LUFTBAUMの庭園エリアに
設置された専用スピーカー



株式会社ルミネ 大岩諒氏
品川開発プロジェクト開業準備室
ニュウマン高輪店担当

出や動きに合わせて音が変化する仕掛けなどを通じて、日常や今まででは感じたことのないような音体験を育てていきたいと考えています。

イマーシブオーディオで、音を体験の中心に据えた空間へ

町田智史氏（ユニオンサウンドシステム）：最初にご相談を受けた際は、レストランフロアの共用部にBGM設備を入れるというものでした。ただ、NEWoMan TAKANAWAには大きな庭園があると分かり、「ここで人が立ち止まって体験できる仕掛けを作りたい」と思ったのです。

商業施設の音響は「目立たず快適であること」が前提になりがちですが、今回はそれを逆手に取り、あえて「音を体験の中心に据える」という提案をしました。そこで採用したのがイマーシブオーディオです。

360度にスピーカーを配置し、ネットワークオーディオでマルチチャンネルを構成。その場に音が存在する感覚を狙いました。ここに来なければ体験できない音響を提供したかったのです。従来の「BGM」にとどまらず、空間そのものを音で演出するという発想は、施設のコンセプトとも重なっていると感じています。



株式会社ユニオンサウンドシステム
町田智史氏
取締役・サウンドシステムデザイナー

音響と照明を同一ネットワークで制御し、安定性を最優先した設計

小島裕右氏（ユニオンサウンドシステム）：今回の大きな課題は、2フロアに分散したアンプをAoIP (AES67) で接続し、さらにQ-SYSを用いて音響機器と照明設備を統合的に制御することでした。屋外庭園を含むため、制御用WiFiを安定させる必要もありました。

音響と照明と同じネットワークに載せる以上、トラブルが起きた際にどう切り分けるかが重要になります。特に一度トラブルが発生するとイベント全体に影響が及ぶため、設計段階から安定性を最優先に検討を重ねました。VLANの設定やプロファイルの変更を繰り返し試しながら、課題を一つひとつ検証していったのです。



株式会社ユニオンサウンドシステム
小島裕右氏 エンジニア

人の伴走とツールの支援 —NETGEARを選んだ決め手 (Engageの活用)

小島氏：別の案件でNETGEARと話したとき、チャレンジングな提案に対して「できない」と言うのではなく、「これはこうすればできます」「これは難しい」と明確に示してくれました。その姿勢に信頼感を持ち、今回も一緒にチャレンジしたいと思ったのです。製品そのものの信頼性に加えて、担当者の提案力や伴走する姿勢が大きな後押しになりました。

今回のシステムでは多くの設定変更が必要でしたが、NETGEARのEngage（管理ソフトウェア）が大きな助けになりました。設定状況を一覧で確認でき、問

題箇所を即座に把握できます。さらに設定を一括で反映できるので、作業時間は大幅に短縮できました。従来であれば数日単位の調整が必要だったものが、数時間で完了するケースもありました。苦労はあったけれど、苦労しきらずに終わったなという印象があります。

音響を運営の武器に —柔軟なコントロールと進化する仕組み



ProAV対応フルマネージスイッチ M4250-26G4F-PoE+

町田氏：ネットワークオーディオの導入により柔軟性が大幅に高まりました。ゾーンごとに音量や音源を自由にコントロールできるため、「この場所だけ音を下げたい」という要望にも全体を止めずに対応できます。運営側からの細かなリクエストにも即応できる仕組みは、従来の設備では実現できなかった部分です。イベントのときは昼と夜で全く違う演出をしたり、イベントのパフォーマンスに合わせて音を切り替えたりもできます。最初の設計にとどまらず、運営を通じてシステムを進化させられるのは大きな価値です。特に「一度作って終わり」ではなく、今後も育てていける仕組みとして評価しています。

大岩氏：設計段階だけでなく、開業後も柔軟に活用できることは大きな強みです。お客様の声やイベントに応じて音響体験を調整できるのは、この施設の魅力をさらに高めています。商業施設において、音響を「運営の武器」として使える事例はまだ少なく、挑戦的な試みだったと思いますが、その成果が実感できています。

まとめ

NEWoMan TAKANAWAは、『Beyond the Life Value』というパーソナリティのもと、庭園空間にイマーシブオーディオを導入し、商業施設の枠を超えた音響体験を実現しました。さらに音響と照明を統合したネットワークにより、イベントから日常利用まで幅広いシーンで柔軟な演出を可能にしています。今後は、オープンエアの庭園空間を活かし、ライブや没入型演出など、動きに合わせて音が変化する新しい仕掛けにも取り組んでいく予定です。その基盤を支えるNETGEARのソリューションは、安定性と拡張性を兼ね備え、設計から運営、さらには未来の挑戦までを支えています。商業施設における「音とネットワークの新しい活用」を示す、象徴的な取り組みとなっています。

製品



ProAV対応フルマネージスイッチ
M4250



ProAV用アクセスポイント
WBE718